第７回　世界の言語教育事情研究部会
070126
日本外国語専門学校
関崎博紀

中央民族大学の日本語学習者が持つビリーフの調査

関崎博紀

1. 中央民族大学について

1－1. 中央民族大学の概況

〇創立：1950年

〇学生数：約7000人(うち7割が少数民族：55民族)

〇中国国内の民族大学／民族学院

雲南民族大学	西北民族大学	西南民族大学	
中南民族大学	内蒙古民族大学	中央民族大学	
湖北民族学院	西北第二民族学院	貴州民族学院	
西藏民族学院	青海民族学院	大連民族学院	など

〇中国の56民族全てが在籍するのが中央民族大学

1－2. 中央民族大学の日本語学習者

〇学習者数：312名(国際交流基金 2003:349)

〇学習者の所属

・外国語学院日本語専攻(2004 年 9 月開設、以下、日本語科)

・朝鮮語言文学専攻(以下、朝鮮語科)

・モンゴル語言文学専攻(以下、モンゴル語科)

(・公共外国語(第二外国語))

〇各日本語学習者の母語と外国語(第二母語)

・母語：漢語(中国語)／朝鮮語／モンゴル語

・外国語：英語／日本語／中国語

2. 調査

2－1. 在籍中に気がついたこと

・積極的に日本を知りたがる学生が多い。

・発音や文法に強く興味を持っている印象。

・非常に熱心に自習をする学生が多い。

2－2. 先行研究

BALLI (The Beliefs About Language Learning Inventory) と呼ばれるツールを用いて中国人の学習観を調査した研究には、板井(1997)、板井(1999)、尹(2001)などがある。BALLI は Horwitz が開発したもので、「言語学習上の様々な問題に関する学習者の意見を測るのに用いる」(Horwitz 1987: 120)。

例) ･I have a special ability for learning foreign language.
(私には外国語学習の特別な才能がある)
･The most important part of learning a foreign language is learning vocabulary words.
(外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である)

板井(1997)は、中国人学習者の言語学習のビリーフを把握する目的で、上海の復旦大学日本語科の学生を対象に調査を実施している。その結果、語学学習の動機について、「学習者は日本語が上手になりたいという明確な動機の他に日本人の友人がほしい、文化背景を理解したい、話せたら専門や仕事に有利であるという動機を持っている」と報告している(板井 1997:p77)。また、「外国語学習においては、語彙→文法→翻訳」の順に重視する傾向が強かった」とも述べている(同)。

板井(1999)は、中国人学習者に受け入れられやすい教授法や教室活動を提供するための基礎データを収集する目的で、香港城市大学の商業及び管理学系、国際貿易専攻の学生を対象にアンケートを実施している。その結果、言語学習の性質について、「語彙」、「文法」、「翻訳の学習」の全てを重視する傾向にあり、中でも文法の学習を重視していると報告している(板井 1999:170)。また、教師に多くの役割を期待しており、「教師依存的な結果が出てきた」と述べている(板井 1999:171)

尹(2001)は、北京にある首都師範大学において日本語主専攻の学習者を対象とし、日本語学習者のビリーフを把握するために調査を実施している。その結果、言語学習の動機について、「日本語をコミュニケーションや仕事に用いたいという道具的な動機見られる(ママ)が、それほど高いものではない」と分析している(尹 2001:122)。また言語学習の性質について、語彙や文法を重視する傾向があると報告している(同)。

→日本や日本語について興味を示す学習者については、コミュニケーションや仕事に有利である、文化背景を理解したいと考えている可能性がある。
→語彙や文法を非常に重視している。
→同一の質問に対して異なる回答が得られたのは、調査地点や調査対象者の違いが影響している可能性がある。民族、母語などによっても、結果が異なる可能性がある。
→中国人日本語学習者の学習上の自主性、自律性ということに関しては、ビリーフが調査されていない。
⇒中央民族大学に在籍する日本語学習者がどのようなビリーフを持っているかアンケート調査を実施する。

2－3. 調査方法

今回の調査に使用するアンケート作成するに当たって、Horwitz(1987)、Cotterall(1995)、木谷（1998）などを参考にした。

Horwitz(1987)は、教師に学習者が持っているビリーフにより注意を払わせる目的で、BALLIを用いたアンケートを実施し、結果を分析している。その際、ビリーフを以下の5つの領域に分けて考察している。

･言語学習の適性
･言語学習の難易度
･言語学習の本質
･学習ストラテジーとコミュニケーションストラテジー
･言語学習の動機

Cotterall(1995)は、自律性に対して、学習者がどのようなレディネスを持っているか調査している。アンケートに因子分析を施した結果抽出された6因子を、以下のように名づけている。

・教師の役割
・フィードバックの役割
・学習者の独立性
・学習の能力に関する学習者の自信
・言語学習の経験
・学習のアプローチ

木谷（1998）は、国際交流基金日本語国際センターにおける海外日本語教師研修への示唆を得るため、ロシア人大学生の言語学習観を調査、考察している。木谷は、Horwitz(1987)と Cotterall(1995)の調査で使われた2つのアンケート項目を融合させて45の質問項目に作り直し、調査を行っている。質問項目は、以下の5つのグループからなる。

・教師の役割
・学習者の自律性
・言語学習の適性
・言語学習の本質
・言語学習の動機

木谷(1998)で利用されたアンケートに多少の変更を加え、5領域45項目からなるアンケートを作成し、中国語に翻訳した。それぞれの項目について5段階評価で記入を依頼し、記入は授業中に実施し、宿舎へ持ち帰って記入するなどはしないよう依頼した。

・調査対象：中央民族大学の日本語学習者
・調査期間：2006年10月中旬～11月初頭

3. 結果

ここでは、現段階で入力が終了しているデータについて述べる。

	日本語科	朝鮮語科	モンゴル語科	合計
1年生	22	26	18	66
2年生	22	34	26	82
合計	44	60	44	148

3－1. 各科の結果と解釈

ここでは、まず各科の結果について解釈し、次に3学科の比較を行う。

3－1－1. 日本語科

・教師の役割についての信念

…学習で成功するにはいいい教師が必要だと強く思っている学習者が多い。学習者自身について現在問題となっている点やこれから問題となる点、自身の進歩の具合などを指摘してもらうことを期待している。学習者を勉強するよう仕向ける、学習の目標を決めるなどの役割はさほど期待されていない。

・言語学習の自律性についての信念

…学習者は、自ら新しいことに挑戦し、問題に対しても自身で解決方法を探すことを好む傾向が強い。いつ誤用を犯したか分かる、どの程度進歩したか自分で分かるという項目については、中間的な反応が見られた。

・言語学習の適性についての信念

…特定の人は外国語学習に関して特別な才能を持っていると強く思う学習者が多い。しかし、自分にその才能があるという項目には中間的な反応を示している。他の人と日本語で会話することや、自身の日本語について教師と相談することを恥ずかしいと回答している学習者の割合は高くない。

・言語学習の本質についての信念

…日本文化理解の必要があると強く思う学習者が多い。日本語は日本で学習するのが一番いいと強く思う学習者が多い。

…「発音」、「語彙」、「文法」、「翻訳の方法を学ぶこと」の順番に重視している。正確な発音で日本語を話すことを重視する一方で、初級の段階から誤用を恐れずに話そうとする姿勢が見られる。

言語学習の動機についての信念

…日本人の友達がほしいと強く思う学習者が多い。また、日本語を学習したらいい仕事の機会に恵まれると強く思う学習者が多い。

3－1－2. 朝鮮語科

・教師の役割についての信念

…学習で成功するにはいいい教師が必要だと強く思っている学習者が多い。学習者自身について現在問題となっている点やこれから問題となる点、自身の進歩の具合などを指摘してもらうことを期待している。学習者を勉強するよう仕向ける、学習の目標を決めるなどの役割はさほど期待されていない。

・言語学習の自律性についての信念

…学習者は、自ら新しいことに挑戦し、問題に対しても自身で解決方法を探すことを好む傾向が強い。いつ誤用を犯したか分かる、どの程度進歩したか自分で分かるという項目については、中間的な反応が見られた。

･言語学習の適性についての信念

…特定の人は外国語学習に関して特別な才能を持っていると強く思う学習者が多い。しかし、自分にその才能があるという項目には中間的な反応を示している。他の人と日本語で会話することや、自身の日本語について教師と相談することを恥ずかしいと回答している学習者の割合は高くない。

･言語学習の本質についての信念

…日本文化理解の必要があると強く思う学習者が多い。日本語は日本で学習するのが一番いいと強く思う学習者が多い。

…「発音」、「語彙」、「文法」、「翻訳の方法を学ぶこと」の順番に重視している。正確な発音で日本語を話すことを重視する一方で、初級の段階から誤用を恐れずに話そうとする姿勢が見られる。「読み書き」、「話すこと」、「聞いて理解すること」の順番に易しいと感じている。

言語学習の動機についての信念

…日本人の友達がほしいと強く思う学習者が多い。また、日本語を学習したらいい仕事の機会に恵まれると強く思う学習者が多い。

3－1－3. モンゴル語科

･教師の役割についての信念

…学習で成功するにはいいい教師が必要だと強く思っている学習者が多い。学習者自身について現在問題となっている点やこれから問題となる点、自身の進歩の具合などを指摘してもらうことを期待している。学習者を勉強するよう仕向ける、学習の目標を決めるなどの役割はさほど期待されていない。しかし、何を勉強すべきか教えるという役割を強く期待する学習者が多い。

･言語学習の自律性についての信念

…学習者は、自ら新しいことに挑戦し、問題に対しても自身で解決方法を探すことを好む傾向が強い。一方で、教師から手助けを申し出てもらいたいと強く思う学習者も多い。いつ誤用を犯したか分かる、どの程度進歩したか自分で分かるという項目については、中間的な反応が見られた。

･言語学習の適性についての信念

…特定の人は外国語学習に関して特別な才能を持っていると強く思う学習者は多くない。自分にその才能があるという項目にも中間的な反応を示している。自他ともに外国語学習において特別な才能があるとは思っていないようである。他の人と日本語で会話することや、自身の日本語について教師と相談することを恥ずかしいと回答している学習者の割合は高くない。

･言語学習の本質についての信念

…日本文化理解の必要があると強く思う学習者が多い。

…「発音」、「語彙」、「文法」、「翻訳の方法を学ぶこと」の順番に重視している。正確な発音で日本語を話すことを重視する一方で、初級の段階から誤用を恐れずに話そうとする姿勢が見られる。「読み書き」、「話すこ

と」、「聞いて理解すること」の順番に易しいと感じている。

言語学習の動機についての信念
…日本人の友達がほしいと強く思う学習者が多い。

3－2. 各科の比較
ここでは、各信念グループ内での順位について、学科間で3以上の隔たりがある項目を取り上げる。

教師の役割についての信念　(項目数　9)	日本語科	朝鮮語科	モンゴル語科
定期的なテストを実施することは教師の助けになると分かっている	1	2	5
教師は常に、当該の教室活動をどうして行うのか説明すべきだ	9	9	6
学習の目標を教師に決めてもらいたい	7	6	9

言語学習の自律性についての信念　(項目数　9)	日本語科	朝鮮語科	モンゴル語科
私は自分がどの程度学習したか独自の検査方法を持っている	9	8	6

言語学習の適性についての信念　(項目数　9)	日本語科	朝鮮語科	モンゴル語科
ある人は外国語習得の特別な才能を持っている	1	1	6

言語学習の本質についての信念　(項目数　14)	日本語科	朝鮮語科	モンゴル語科
日本語が何に必要かはっきり分かっている	6	3	2
外国語学習の最も重要な部分は語彙を学習することだ	8	4	5
外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である	11	11	7

	質問	正確な発音で日本語を話すことは重要である	外国語学習の最も重要な部分は語彙を学習することだ	外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である	日本語学習の最も重要な部分は母語からの翻訳の仕方を学ぶことである
日本語科	順位	2	8	11	13
	平均値	4.80	3.80	2.59	2.20
朝鮮語科	順位	2	4	11	12
	平均値	4.67	4.25	3.05	2.70
モンゴル語科	順位	2	5	7	11
	平均値	4.55	3.98	3.84	3.31

(順位は、「言語学習の本質についての信念」内での平均値の順)

日本外国語専門学校
関崎博紀

4. まとめと考察

以下、中央民族大学の日本語学習者について本発表の内容をまとめ、指導上考えうることを示す。

①学習者は、自身について現在問題となっている点やこれから問題となる点、進歩の具合などを指摘してもらうことを期待している。試験などにより明らかになった学習者の問題点や進歩の具合などを、明確に学習者に伝える姿勢が求められる。モンゴル語科の学習者からは、学習すべき内容や当該の教室活動を行う理由を明確に示すことが他の2学科に比べて強く求められている。

②学習者は、自ら新しいことに挑戦し、問題に対しても自身で解決方法を探すことを好む傾向が強い。教師が誤用や問題点を指摘すれば、学習者は自主的にそれを解決することが期待できる。

③学習者は、自分に外国語学習に関する特別な才能があるという項目には中間的な反応を示している。しかし、他の人と日本語で会話することや、自身の日本語について教師と相談することを恥ずかしいと回答している学習者の割合は高くないことから、日本語による会話や教師との相談に積極的に取り組ませることで、実力と自信を高めることができると考える。

④学習者は、発音や語彙の学習を積極的に行おうとする姿勢を持っており、これを活用した指導が考えられる。日本語科の学習者は発音を重視する傾向が他の2学科に比べて強く、モンゴル語科の日本語学習者は文法を重視する傾向が他の2学科に比べて強い。指導の際にはこれらの差異を考慮する必要がある。また、日本語科の学習者は「日本語が何に必要かはっきり分かっている」という項目に対して中間的な反応を示していた。学習に消極的に働きかねない要因であり、注意が必要であると考える。

⑤日本人の友達がほしいと強く思う学習者が多い。現地在住の日本人や日本人留学生などとの交流のネットワークを築くことで、学習動機を満たし、日本語の能力を向上させる契機とすることができると考える。

5. 今後の課題

・データの入力を早急に進め、第二外国語として日本語を学習する者についてもビリーフの傾向を調査する。
・日本語科は3年次の学習者のデータもあるので、日本語科内で学年によるビリーフの変化を調査したい。
・外国語学習経験や性別とビリーフの関係を分析したい。

参考文献：

板井美佐(1997)「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS-上海復旦大学のアンケート調査より-」『筑波大学留学生センター日本語論集』、第 12 号、63-88.

板井美佐(1999)「日本語学習者についての中国人学習者の BELIEFS ： 香港城市大学のアンケート調査から分かったこと」『筑波大学留学生センター日本語論集』、第 14 号、163-179.

尹松(2001)「日本語学習者のビリーフについての意識調査-中国首都師範大学の場合-」『日本語教育研究』、第 41 号、財団法人言語文化研究所、115-129.

木谷直之(1998)「極東ロシアの大学生の言語学習観について－海外日本語教師研修のための基礎データ作成を考える－」『日本語国際センター紀要』、第 8 号、国際交流基金日本語センター、http://www.jpf.go.jp/j/urawa/public/kiyou/ky08_01.html

独立行政法人 国際交流基金(2003) 『海外の日本語教育の現状　日本語教育機関調査 2003』、独立行政法人国際交流基金、凡人社.

Elaine K. Horwitz （1987）“Surveying Students Beliefs About Language Learning”Learner Strategies in Language Learning. Anita Wenden & Joan Rubin eds, prentice hall, 119-132.

Sara Cotterall （1995）“Readiness for Autonomy：Investigating Learner Beliefs”. System, Vol.23, No.2, 195-205.

参考URL：

Cotterall(1995)において使用されたアンケート

http://www.vuw.ac.nz/lals/staff/sara-cotterall/cotterall.aspx